

# ANNUAL REPORT

2016-2017

ボーイスカウト年次報告書



なろう。一人前に。

11万人の活動報告書

# ボーイスカウトのはじまり

1907年、イギリスのブラウンシー島。かねてから健全な青少年の育成には野外でのグループ活動が最適と考えていたイギリスの退役将軍ロバート・ベーデン・パウエル (B-P) 卿が20人の少年たちを集めて実験キャンプを行いました。これをもとにB-P卿が著した『スカウティング フォア ボイズ』は、冒険心や好奇心の旺盛な少年たちを野外活動に誘う楽しいヒントに満ちており、この本に刺激されたイギリス各地の少年たちが次々にグループを結成したのがボーイスカウトのはじまりです。その人気はまたたく間に世界に広がり、今では世界164の国と地域で4,000万人以上の仲間たちがスカウト活動に参加しています。



1907年ブラウンシー島での実験キャンプの様子

## 世界共通のヴィジョン

# Creating a Better World

スカウト運動では、人の役に立つことをすすんで行える有能な人材を育成すべく、それぞれの国や文化に沿ったさまざまな教育活動を展開しています。世界共通のヴィジョン(展望)として「Creating a Better World (より良き社会を創る)」を掲げています。



## 日本におけるスカウト運動

日本には1908(明治41)年にボーイスカウト運動が伝わりました。当時全国各地にさまざまな少年団がありましたが、全国的な統一組織結成への動きがあり、1922(大正11)年に「少年団日本連盟」が創立され、世界のスカウト運動への仲間入りを果たしました。これが日本におけるボーイスカウト運動のはじまりです。

現在では47の都道府県にそれぞれ連盟があり、約11万人が運動に参加しています。



1925(大正14)年山中湖畔での第2回全国野営大会の様子

## 一貫性のある教育と5つの部門

ボーイスカウトでは少年たちの発達段階にあわせ、5つの部門にわかれた教育プログラムを提供しています。

小学校1年生 4月～	ビーバースカウト
小学校3年生 4月～	カブスカウト
小学校6年生 4月～	ボーイスカウト
中学校3年生 9月～	ベンチャースカウト
18歳～25歳	ローバースカウト



## 現代日本の 青少年をとりまく環境

### ～ボーイスカウトの役割～

現在、日本の家庭の16%が貧困層に分類されており、特に若年層の貧困率が高まっています。また、いじめ等による若者の自殺も長年の課題で、15歳から34歳の若い世代の死因の1位が自殺となっているのは先進国では日本だけという内閣府統計があります。

このような社会環境のなか、学年や学校の枠をこえた仲間を得て、自然の中での仲間たちとの触れ合いを通じてたくましさや優しさを身につけ、そして地域社会への奉仕活動等を通じて思いやりの心が育まれるボーイスカウト活動への期待が高まっています。

困っている人には手をさしのべる。自ら率先して行動する。仲間と助け合って大きな力を発揮する。このような心と技能をもった若者を1人でも多く育成していくことを通じて、より良い社会を築いていく。これこそがボーイスカウトが社会のなかで果たしているこうとしている役割です。



### リーダートレーニング

ボーイスカウトの青少年を支援する指導者は、みな地域のボランティアです。スカウト教育に関するさまざまな講習、研修を受けた指導者が青少年の育成にあっています。

平成28年度には研修の入門となる「ボーイスカウト講習会」を全国で236回実施しました。また、平成29年度からは隊指導者訓練の基礎課程を変更。キャンプ生活を中心に基礎的な知識やさまざまな体験を行う内容となります。

## 教育のための施設



那須野営場



大和の森・高萩スカウトフィールド

ボーイスカウトは全国各地の自然の中やキャンプ場などさまざまな場所で活動しますが、スカウトキャンプや全国規模の指導者の研修を行うため、日本連盟でもキャンプ施設を運営しています。現在、青少年のハイアドベンチャーに適した広大な野外活動フィールドを茨城県高萩市に設置。開拓や施設建築などを進めており、2017年にはグランドオープンイベントを計画しています。

## セーフ・フロム・ハーム

### ～思いやりの心を育む教育～

いじめ、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト（無視）、搾取などの危害について、その予防と対処法を実践し、スカウトとして、また人として、してはいけないことを学ぶのが、セーフ・フロム・ハームです。平成29年度からはボーイスカウトの全ての指導者がこのセーフ・フロム・ハームの研修を履修して、スカウト活動の安全意識を高めていきます。また、これはスカウトたちにとっても、自分自身と周りの人を危害から守ることを学ぶ機会となります。





参加目的



特別支援教育を勉強しているので、  
そのための体験をしたいと思い  
参加しました。

後藤 真実さん

岐阜・岐阜第8団

(チャレンジクルー：主に高校生年代の運営スタッフ)



将来の夢



富井 睦子さん  
岐阜・多治見第1団  
(参加者)

アグーナリーの  
チャレンジクルーを  
やりたいです。

将来の夢

今、社会福祉の勉強をしていて、  
将来は社会福祉士になりたいです。



吉村 和馬さん  
京都・京都第24団  
(大会スタッフ)

介助犬  
カローナ

# 第12回日本アグーナリー

8月12日から16日、静岡・富士山麓山の村にて開催した第12回日本アグーナリー。約1,000人が集い、障がいの有無に関わらず、仲間とともにさまざまなことに挑戦し、成長し、お互いに支え合うことでどんな困難にも立ち向かえることを学びました。

アグーナリーとは

日本アグーナリーは、障がいのあるスカウトを中心として4年周期で開催する、国際障がいスカウトキャンプ大会です。障がいの有無や老若男女にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」の実現に寄与することを目指しています。

将来の夢

たくさんの国を訪問したいし、  
将来はキャビンアテンダントに  
なりたいです。



リムさん  
シンガポール  
(参加者)

【大会期間】平成28年8月12日(金)～16日(火)

【会場】静岡・県立富士山麓山の村(静岡県富士宮市)

【参加人数】943人

【海外連盟】オーストラリア/マレーシア/シンガポール/台湾/韓国/アイルランド

【大会目標】①国内外の特別な配慮を必要とする青少年が相集い、自信と勇気に満ちた生活態度を自ら獲得し、社会参加の促進を目指す。

②障がい者への理解を深め、適切な配慮や実践を行い、障がいの有無や老若男女にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う社会の実現に寄与する。

③富士山麓の豊かな自然の中でのキャンプ生活を通じて、自然・人・社会の共生の大切さを体感し、持続可能な社会への取り組みに寄与する。

【後援】文部科学省、厚生労働省、静岡県、静岡県教育委員会、富士市、富士市教育委員会、富士宮市、富士宮市教育委員会



## 富士特別野営2016

ボーイスカウトの教育の基本である野外活動や、イカダでの山中湖横断などのハイアドベンチャープログラムを仲間たちと挑戦することにより、互いに学び、信頼や絆の大切さを体得し、友情を育み、スカウトスピリッツ（徳性、忍耐力、気力、清貧）を実践することを目的としている大会を開催しました。

【期 間】 2016年8月16日(火)～22日(月) / 7日間

【参加者】 20県連盟45人



## スカウトの日

「スカウトの日」は、全国のスカウトや指導者が地域社会への奉仕活動をはじめとするさまざまなスカウト活動を全国の各地域において一斉に展開し、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献するとともに、スカウト運動が地域社会に根ざした実践活動であることを広く社会にアピールすることを目的として毎年9月の第3月曜日(敬老の日)に開催しております。

【参加数】 748団 / 25,335人

【実施例】 地域のゴミ拾い、植林活動等



## 日韓スカウト交歓計画

平成10年に金大中韓国大統領と小淵恵三総理大臣の署名によって、国の政策となった中・高生交流促進事業の一環として開始された日韓スカウト交歓計画は、平成11年度から平成25年度までの15年間で、1万人以上の交流を通じ、両国の良好な関係作り成果を残しました。この成果を評価し、再開2年目の本年は、日本のスカウトとの交流、日本の各地での見学、ホームステイをプログラムの3本柱として実施しました。

【期 間】 1月6日(金)～1月15日(日) / 10日間

【参加者】 韓国連盟よりスカウト36人、指導者4人 合計40人

【訪問先】 福岡、佐賀、長崎



## 富士スカウト代表表敬

ボーイスカウトの最高位である富士スカウト章を受章したスカウトの代表が、毎年各所を表敬訪問させていただいております。本年は、東宮御所で皇太子殿下にご接見をいただき、首相官邸では、萩生田内閣官房副長官から、文部科学省では義家文部科学副大臣からそれぞれ激励のお言葉をいただきました。

東宮御所

【日 時】 3月21日(火)

【参加者】 代表スカウト 30県連盟47人

首相官邸、文部科学省

【日 時】 3月27日(月) 13:40～14:00(文部科学省)、17:40～18:00(首相官邸)

【参加者】 代表スカウト 18県連盟47人

## 維持会員数

スカウト運動の趣旨にご賛同いただき、平成28年度末で3,645人に維持会員となっておりました。また、法人では117社よりご支援をいただき、次代を担う青少年の健全育成を応援していただいております。

# 3,645人 ／117社

## 企業との連携による、 世界の問題や社会的課題への取り組み

### 防災への取り組み

東日本大震災から5年が経ち、平成28年熊本地震においても多大な被害をもたらした平成28年、全国のイオンモール等を会場として「全国防災キャラバン」を実施しました。これは、各地域の子どもと保護者に対して、事前に予知することができない災害について、いま一度考える機会や、防災についてのさまざまな技能などを提供するため、イオンの協力で行ったものであり、全国56会場、延べ1万人以上の参加者を迎え実施しました。



### 難民支援

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の調べでは、2015年末時点、世界には支援を必要としている人が約6,530万人いて、その半数以上が18歳未満の子どもです。また、そのうち保護者がいない子どもは3万4300人にもなります。



この現状を踏まえ、株式会社ユニクロの協力のもと、難民について学ぶ機会や支援を実践する機会を提供。全国で3万着を超える衣料品を回収し、難民キャンプへと届けられました。

## 社会とボーイスカウト

ボーイスカウト日本連盟では、さまざまな企業にご支援をいただきながら、これから社会に出ていく大学生年代を対象に、スカウト活動で培ったスキルや体験を企業・社会でどのように活かすことができるかを考えるための「スカウトと社会をつなぐ場所」を開催しています。また、この活動は、企業にとっても「社会人基礎力」などを身につけているボーイスカウトの人材発掘につながるものでもあります。今後も定期的には開催していきます。

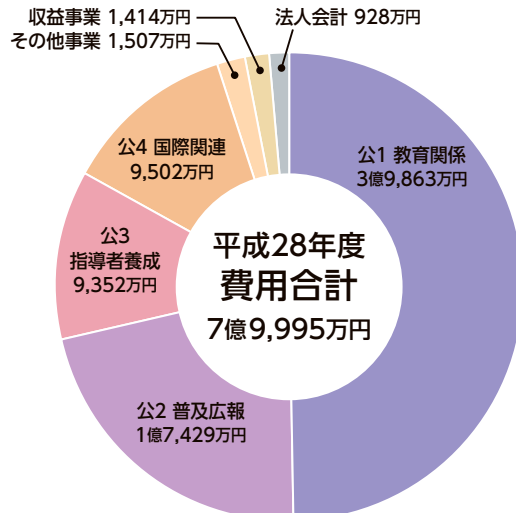
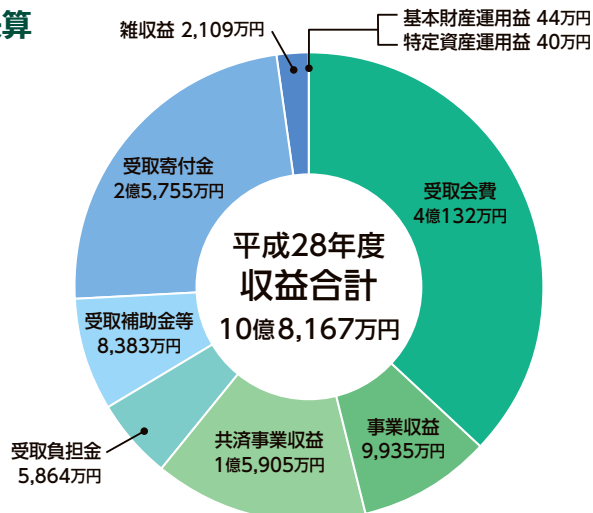


第1回 日時：平成29年2月24日（金）  
企業ゲスト：ミズノ株式会社



第2回 日時：平成29年3月28日（火）  
企業ゲスト：富士通株式会社

## 平成28年度決算



事業スローガン

# 「活動的で自立したスカウトを育てよう!!」

## ～日本連盟創立100周年を目指して～

### 1. 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

- (1) コミッショナーの充実
- (2) 質の高い活動のための方策（セーフ・フロム・ハーム）
- (3) 指導者養成
- (4) 地域コミュニティづくり
- (5) プログラムの見直し
- (6) 登録制度の見直し
- (7) スカウティングにおける成人の役割
- (8) 情報伝達手段の刷新
- (9) 組織体制の検討
- (10) 国家資格認定制度へのチャレンジ
- (11) 公益事業の取り組み
- (12) 野外活動施設の確保

### 2. 加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組み

- 加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟、地区、団との連携により、次の3項目を重点的に取り組みます。
- 加盟員獲得に向けた広報活動の展開、スカウト活動のユニークさをアピール
  - 母親、父親世代へのアプローチと関心事のアピール
  - 団への支援と新団設立への取り組み

### 3. 安定した運営

公益財団法人として安定した運営を

進めるために、次の4項目への取り組みを進めます。

- 企業、他団体、行政との連携促進
- 維持会員増強
- 登録料の検討
- 世界、地域との連携

### 4. 100周年記念事業の策定

日本連盟創立100周年まで5年となる平成29年度より、記念事業のさまざまな計画の検討を開始します。

- 記念事業の策定と準備開始
- 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）の会場決定

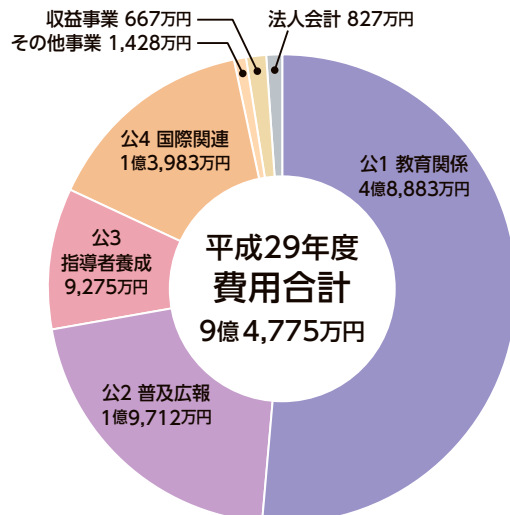
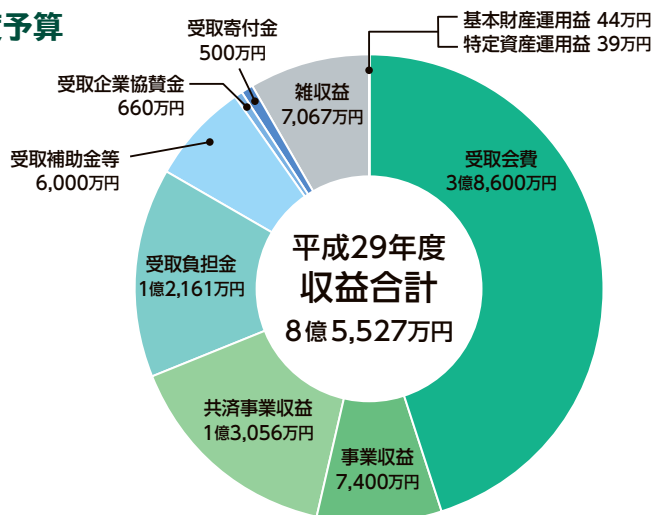
## 創立100周年を目指した長中期計画の概要

### 「スカウティング再生」

2022（平成34）年、日本連盟創立100周年を迎えるにあたり、運動の根幹である青少年の育成について、改めて本連盟は、各地域で冒険的で楽しい野外活動を行いながら、奉仕活動に励む「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指した長中期計画を策定しました。

スカウト教育による最大の効果を得られるように、活動の質（環境）を確保するとともに、活動を十分に満喫できる人員の確保（量）を行っていきます。そして、日本のスカウト運動が、青少年教育の中心的役割を果たし、青少年育成の更なる成果を得ることを目指します。

### 平成29年度予算



# なろう。一人前に。

一人前って意外とむずかしい。

自分のことは自分でする。

困難に立ち向かえる。

こまってる人の助けになる。

そんな自分になるために。そなえよつねに“ボーイスカウト”。

土を触ったことのない子どもや、魚を切り身でしか見たことのない子ども。

ナイフを使えなかったり、自分で靴紐を結べない子ども。

こうした子どもたちを見ることが多くなってきている今の時代。

大人も同じかもしれません。

困っている周りの人に見向きもしなかったり、年上の人に敬意を払わなかったり……

なかなか「一人前」になれない人たちが増えているような気がします。

私たちボーイスカウトは、学校の活動のみならず勉強塾やスポーツ教室、

音楽・美術のおけいこなどで忙しくなっている子どもたちが、

それぞれの暮らしの中で「一人前」になれるような活動を行っています。

そして、2022年に100周年を迎える日本連盟として

「なろう。一人前に。」をテーマとしたキャンペーンを開始いたします。

ぜひ、私たちの活動をご理解いただき、応援いただけますよう、お願い申し上げます。



**公益財団法人ボーイスカウト日本連盟**

〒113-8517 東京都文京区本郷1-34-3

【Tel】 03-5805-2561 【Fax】 03-5805-2901 【E-Mail】 info@scout.or.jp

**<http://www.scout.or.jp>**